

過去の地震から知る、未来の備え ～「前震」は命を守るチャンス

名古屋大学災害対策室 木村玲欧

未来の地震にそなえるためには、過去の地震を知ることが大切。1945年にこの地域で2,306人の死者を出した「三河地震」から、未来の備えにつながる教訓を考えていきます。

■三河地震の3日くらい前から前震があった。警戒して外で寝た人も多かった。地震前日、私の家でも裏の空地にシートをテント代わりに張り、そこへ布団を持ち出して家族みんなで寝た。(宝飯郡形原町(蒲郡市形原町) 三浦昭六さん)

三河地震の3日前(1月10日)から、地面が「びりびりびりびり」しておったですね。何か本当に地面が動いておる感じがするじゃんね。

ほいで三河地震前日(12日)におやじが「今日はどうにも気持ちが悪い」ということで、兄貴が勤めていた運送屋からシートを借りて、裏の空地にテント代わりに張って、そこへ布団を持ち出して家族みんなで寝たのです。

10日・11日は近所もけっこうおったけど、12日に揺れが少なくなって大分家に戻ってしまった。外に寝た人のほうが少なかったね。



絵 藤田哲也

大きな地震が起きる前に、「前震」(ぜんしん)と呼ばれる揺れを感じる地震が起きることがあります。三河地震は前震の多かった地震として知られています。気象庁の資料によると、三河地震の前に、マグニチュード5クラスの地震が3回、マグニチュード4クラスの地震が5回起きていて、わかっているだけで震度4～5強程度の地震が8回も起きたのです。

この前震に対して多くの人が「避難行動」をとりました。その中で「屋外に避難をする」ことを選択した人々がいました。普段は農具置きに使っているわら小屋など、軽い屋根の小屋に避難したり、荷物用のシートなどをテントにして寝泊まりした人がいました。

話は変わりますが、阪神・淡路大震災では、神戸市内の犠牲者の83.3%が建物・家具等の倒壊による圧死、12.8%が焼死、3.9%がその他という結果でした。このうち、12.8%の焼死で亡くなった人のほとんどが、建物・家具倒壊で脱出不可能になり焼死したため、あわせると96.1%の方が建物・家具倒壊が原因で亡くなったことがわかります。「命を守るためには建物・家具の下敷きにならない」ことは当時の人々も強く認識していたのでしょう。

地震が続くときは要注意です。ニュースなどで科学的に正しい知識を収集しながら、命を守る非常態勢をとることが大切です。今の私たちは、耐震性能の高い家に住んでいるはずなので、もちろん屋外に出るだけが選択肢ではありませんが、家の中にいる時でも、寝る場所や長い時間を過ごす場所のまわりに「命を脅かす危険性はないか？」を再確認してください。「前震」は、私たちに貴重なチャンスを与えているのです。